
秘密の花園くん

あたなかさ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

秘密の花園くん

【Nコード】

N48040

【作者名】

あたなかさ

【あらすじ】

平凡な生活を送ってきた俺こと『長森深夜』は、手違いで風紀委員に入ってしまう。

彼女が彼女か花園ひかり（前書き）

コメディーなので、お許しください

彼が彼女が花園ひかり

「あ、あの！１年A組の白雪さんだね、俺はD組の坂田って言うんだけど……。あ！いや、その、白雪さんって入学する前から有名なだったから、名前知ってるだけだから！ストーカーとかじゃないから！こっそり隠し撮りとかしてないから！……………ごほん。えつと、この樹の伝説、君も知ってるの？」

なんとということでしょう！

私がけたたましい声で目を覚ますと、目の前にはとても美しい少女が立っていたのです！

顔はさくらんぼ、色は雪のように白く、ほっぺは桃のように華やかで、小さな鼻と形の良い唇がかよく儚いように彼女を形作っているのです。少々大きめに作られたように見える制服がより庇護欲をかきたてる一因になっていました。

この樹って？と白雪の姫は小首をかしげました。坂田は何に興奮したのか鼻息を荒立たせ、その私をぺしぺしと叩きながらいかにも嬉しげに説明し始めました。鳥肌が立つたわ。

「ほら、この林檎の木だよ。この学校が出来る前から生えてたんだけど、何度切り倒しても次の日には元通りになってるらしいぜ！スゲーけど、ある意味怖いよなっ」

むひー！！あなたの下心の方が怖いわよっ！！

「それに、伝説ってそれだけじゃないんだぜ……」

坂田は溜めに溜め、鼻の穴も広げに広げ、ついでに鼻毛も見えに見え。大きく息を吐き出した後、世界の終わりが訪れるかのように発表しました。

「な、なんとっ！！この樹の下で告白すると、その二人は将来結婚出来るんだってよ……」

しばしの沈黙。聞こえてくるのはしてやったりと言う坂田の鼻息

だけ。彼女は誰から見ても放心状態でした。この後のセリフを想像してしまつて、彼女が逃げないことに危険を感じました。

「え、えと……だ、だから、お、俺と、結婚してください!!」

坂田はやっぱアホな坂田でした。

「うわっなんかいきなり葉っぱが落ちまくってる! うわっ毛虫がおつこつてきた!! うわあやだあゝ俺虫つて大っ嫌いなんだよぉ!! ひiiiiiiiiいやぁ!!」

さあ! 早くお逃げなさい! この隙に!

そういつたメッセージだったのですが、彼女は呆れたようにため息をはくと、アホの坂田の頭についた毛虫をつまんで私の根本にひよいと置いてあげたのでした。

「……あ、ありがとう……たすかったあ。白雪さん、毛虫とか触れるんだね」

「え、どうして? 普通でしょ?」

「いやなんか、白雪さんみたいなちっちゃくて可愛い女の子が毛虫大丈夫、ってイメージなかったから……」

「オレ、男だよ」

なんということでしょう!

「てめえらの頭吹っ飛んでるんじゃないかねえのか!？」

ついでにスルメが吹っ飛んだ。

「お、オレが、この白雪凛吾郎が、ドキッ 誰もが振り向く美少女はどの一年生!? 木野下学園ミス・新入生に選ばれた!? ふざけんてんな! オレは美少女でもミスでもない! どれかというミセスだぞっ!」

「あら……ついに男の人も子供が産める時代になったのですか?」

まさにミスターチルドレンだな!」

オホホアハハと目の前の2人組が奇妙な笑い声を立てた。

背高のつばのベレー帽野郎と、スルメおるか酢昆布すら知らないかの可憐なベレー帽美少女がオレを訪ねて教室へやってきたのは、入学2日目の昼休みだった。デザートとしてスルメを取り出すと、みんな一斉にオレの方を二度見した後色々と陰口をたたかれていた様だから、救世主様様だと飛び出して行ったのに、告げられた言葉はこのイカが蘇生してまでも「バカなんじゃないカ!？」と突っ込んでくれるんじゃないカという位オレにとっては衝撃的だったのだ。

『おめでとうございます。白雪さんは今年度のミス・新入生に選ばれましたわ。是非、私達と一緒に校内美化に努めていきましょう』

「では、まずは部室と活動内容、他の委員の自己紹介を致しますので……小五郎」

「おう!」

いやいやまだ反論の5%も終わっていないのに!

のに、ベレー帽野郎がいきなり制服を脱ぎ上半身まpp

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4804o/>

秘密の花園くん

2010年12月31日04時13分発行